

各種会議における主な意見

1 第 17 回富士山世界文化遺産学術委員会（R 3. 10. 25）

（1）今夏の富士山の状況について

- ・本年度の状況を踏まえ、次年度以降の新型コロナウイルス感染症対策を検討することが必要。
- ・コロナ禍での閉山により、富士山の自然環境や地元経済にどういった影響があったのか、データを収集・分析していただきたい。そのうえで少人数の検討会を作り、令和 4 年度以降の富士山の適切な来訪者数、道路、登山道の利用のあり方の検討と、計画の策定、実施体制を構築するべき。
- ・今後、利用者負担制度の議論を前進させるためには地元の合意が必要であり、そのためにも、コロナ禍によって来訪者が激減したことによる経済的・環境的影響等の全体の統括は大切である。

（2）富士宮口五合目来訪者施設の整備について

- ・富士宮口五合目近くにある環境省のトイレ等、既存施設を含めた全体計画を検討いただきたい。

（3）「富士山登山鉄道構想」の進捗状況について

- ・ユネスコには遺産影響評価（H I A）の各段階で報告していくこと。

2 第 18 回富士山世界文化遺産学術委員会（R 4, 2, 10）

（1）新型コロナウイルス感染症による富士登山への影響に係る対応について

- ・今後さらに精密な調査の方法を検討する必要があるが、現状では提出案を承認したい。
- ・コロナ禍で減っている来訪者の影響をまずは調査するものであり、これまでの来訪者管理計画をどうしていくかは、その先の議論となる。

3 第21回富士山世界文化遺産協議会作業部会（R3.11.26）

(1) 「富士山登山鉄道構想」に対する学術委員会提言について(報告事項)

- ・スバルラインの道路に登山鉄道を走らせるということだが、鉄道ができた場合、車は走れなくなるということか。

(山梨県回答)

- ・仮に鉄道を通す場合には、基本的に自家用車やバスはすべて止めて、鉄道に乗り換えていただくという構想である。ただ、再三ご説明申し上げているとおり、山梨県として、鉄道をつくることを決めたわけでは全くない。鉄道への理解、或いはそもそも交通システムを切り替えることについても、まず地元の皆様から幅広いご意見をいただいて参りたいと考えている。
- ・県が進めている富士山登山鉄道構想においては、いまだに地元との意見交換が行われていない。新聞によると地元市町とか、地元の観光連盟など、地元では反対論が圧倒的に多いように感じられている。また新聞の読者の意見欄においても、慎重意見とか反対意見が見られる。私は富士山を守り続けてきた地元の意見が反映されず、構想策定が進められていることは、住民代表として、納得できない。

(山梨県回答)

- ・オーバーユース等々指摘される中で、現状をよりよいものにしていくためには、例えばこういう案が考えられるのではないかと、ということで提案されたもの。地元との対話がないのではないかと、というご指摘はまさしくその通りである。先ほども申し上げた通り、まだ十分意見交換の場を設けられていないというのは事実なので、コロナが落ち着いたところで、しっかりと意見交換の場を設けながら、十分にご意見をいただきたいと考えている。鉄道が絶対だとは我々は考えていない。

4 第22回富士山世界文化遺産協議会作業部会（R4.3.10）

(1) 利用者負担制度の検討状況について

- ・この協力金の案件は五合目以上が対象になっているが、五合目以下も加えていただきたいという要望が以前からあったと思う。その辺の考慮はされているか。

(山梨県回答)

- 先ほど示した令和2年度策定の制度骨子にある「富士山の環境保全に対して、幅広い対象から負担を求めることや徴収の合理性の観点から『五合目観光客』も含めるべきとの意見もあるが、これは将来的な方向性や対応を検討する際の課題とする」とあるように、当然この利用者負担制度の課題として位置付けられている。今回は、この条件付入域制度の具体的なオペレーションということだったので、この五合目来訪観光客を（徴収の）対象とする件については、また世界遺産協議会の中での議論になる。

※本遺産協議会における報告事項及び協議事項に係る意見のみを記載